

平成 27 年度 第 3 回（相談支援）分科会報告書

1. 開催日時：平成 27 年 11 月 27 日（金）14：00～16：30

2. 開催場所：独立行政法人国立病院機構 大牟田病院

3. 参加者（所属のみ）

陽だまりの里、相談支援センターほっぷ、蓮の実団地よろず屋、ゆうゆう、相談支援センター悠、相談事業所ねんりん、サングリーン相談支援センター、八女市、リーベル

4. 実施内容

○講演：『重度心身障害児、者への対応やアプローチについて』

講師：大牟田病院 療育指導室 療育指導室長 下川誠之 氏

大牟田病院 療育指導室 主任児童指導員 酒井英佑 氏

①大牟田病院内にある療育指導室とは

全国で療養介護サービス事業、医療型障害児入所（重症心身障害、神経・筋疾患）、小児病棟等を設置している国立病院機構病院（80 病院）にしかない部署。成年後見の対応なども行う。大牟田病院内には大牟田特別支援学校（重心の方）、柳河特別支援学校（筋ジスの方）の分教室が併設されている。現代の医学で救える命が増え医療的ケアの方が増えてきている。



②療養介護について

職員は福祉のわかる医療職員、医療のわかる福祉職員医師、看護職員、生活支援員（療養介助員）、サービス管理責任者（特に求められる人材は福祉のわかる医療職員、医療のわかる福祉職員）。

対象は、

⑦筋萎縮性側索硬化症患者等気管切開を伴う人口呼吸器による呼吸管理を行う方であって障害支援区分が 6。

①筋ジス患者、重症心身障害者であって障害支援区分が 5 以上。

③療育とは

療：医療、治療 + **育**：教育、保育、養育。一人一人の命を大切にし、その力を精一杯伸ばす。生活の幅を広げ豊かな環境をつくる。利用者本人の思いと家族の思いが違う場合も多々ある。家族が知らない療育の場面での本人の様子を家族にしっかりと伝えながら、本人の思いと家族の思いを摺合せていく。

④利用者本人に対して

利用計画書を作る際は、長く療養介護を利用



している方に対して、これからも療養介護の利用が適切なのか等、経過や思いをしっかりと聞いた上で作成してほしい。進行性疾患の患者は「進行性」という恐怖、不安がある。本人、家族はどのように受け止め、どう乗り越えていくか。支援者はどう支援していくか、どう寄り添っていくか。メンタルサポートの重要性。患者の価値観と望みが最も叶う方法で生きる為の助けとなるのみならず、病気の末期においても助けになる。



⑤チーム連携の大切さ

複数の者(機関)が対等な立場に位置した上で、同じ目的を持ち、連絡を取り合いながら、協力し、それぞれの者(機関の専門性)の役割を遂行する。

重度心身障害の方と関わる上で気をつけていることは、その方に反応がなくても、表に出せないだけかもしれない。表現・表情をこちらが読み取れていないだけかもしれない。その方には実は伝わっているかもしれない、とい

うこと。

ターミナルケアが必要な方への目標設定として生命維持、保持の中で QOL の向上、何ができるのか、何をしたいのか、折り合いをつける。計画案の時点で本人、患者としっかりと話し合う。短期目標としては実現可能なことを設定した方がよいと思う。

どれだけ関わりを持って、どれだけ気持ちをキャッチしていくか。家族、スタッフからどれだけ情報を聞き取るかなど本人の思いを感じ取ることが重要となる。



